

⑧	短歌 (1)	文の組み立て	40
⑦	随筆 (2)	熟語の組み立て	36
◆	新出漢字のまとめ①	強調することば	32
⑥	説明的文章 (2)	文末の表現	26
⑤	物語 (2)	文を書く	22
④	詩 (1)	熟字訓	18
③	随筆 (1)	ことばの変化	14
②	説明的文章 (1)	「が」「は」「の」の使い方	10
①	物語 (1)	《問題の答え方トレーニング》	4

⑨	物語 (3)	送りがなのつけ方	42
⑩	説明的文章 (3)	絵や図を見て考える	46
◆	新出漢字のまとめ②		50
⑪	随筆 (3)	部首と意味	54
⑫	俳句 (1)	活用語尾を書き入れる	58
⑬	物語 (4)	たとえを用いた表現	62
⑭	説明的文章 (4)	文を書く	64
⑮	随筆 (4)	誤文訂正	68
⑯	物語 (5)	主語を変える言い方・文の書きかえ	72



①⑦	説明的文章 (5)	.....	76
	強調することは	.....	78
①⑧	随筆 (5)	.....	80
	絵や図を見て考える	.....	82
①⑨	詩 (2)	.....	84
	同音異義語・同訓異義語	.....	86
◆	新出漢字のまとめ ③	.....	88
②⑩	物語 (6)	.....	90
	文章の組み立て	.....	92
②①	説明的文章 (6)	.....	94
	ことわざ	.....	96
②②	随筆 (6)	.....	98
	文を書く	.....	100
②③	短歌 (2)	.....	102
	漢字クイズ	.....	104
②④	物語 (7)	.....	106
	活用語の音便を書き入れる	.....	108

②⑤	説明的文章 (7)	.....	110
	助詞	.....	112
②⑥	随筆 (7)	.....	114
	絵や図を見て考える	.....	116
②⑦	俳句 (2)	.....	118
	漢字の読み書き	.....	120
②⑧	物語 (8)	.....	122
	ことばの使い分け	.....	124
②⑨	説明的文章 (8)	.....	126
	敬語	.....	128
③⑩	随筆 (8)	.....	130
	文を書く	.....	132
◆	新出漢字のまとめ ④	.....	134
◆	新出漢字のまとめ ⑤	.....	136
ふろく	漢字の配当表	.....	138

## 2

## 説明的文章①

## ネコの時間

日高敏隆

学習日  
月 / 日

説明的文章

## 学習のめあて

○ 論点を追いつながりながら、細部まで読み取りましょう。

## 読んで考えよう

● ネコは身近な動物ですが、どうもえたいの知れないところがあります。みなさんはネコを見てどんなふうに思いますか。

## ✓ さいしょにチェック！ 次の問いに答えよう！

□① 何の動物について書かれた文章ですか。

□② ①の動物は、何になつくといわれていますか。

① 線①「よく知っている」とありますが、

□① どんなことを知っているのですか。本文中から書きぬきましょう。

〈ネコが、人間に〉どこで

はなく、〉ということ。く

★ヒント★「ネコを飼ったことのある人」がよく知っていることは何か？

□② (1)のことは、ネコのどんな行動からわかりますか。

ア 飼い主が長く家をあげると、さわぐ行動。

イ 飼い主にえさがほしいとうったえる行動。

ウ 飼い主の存在を全く気にせず、ねむる行動。

★ヒント★①のことがわかる理由をさがそう。

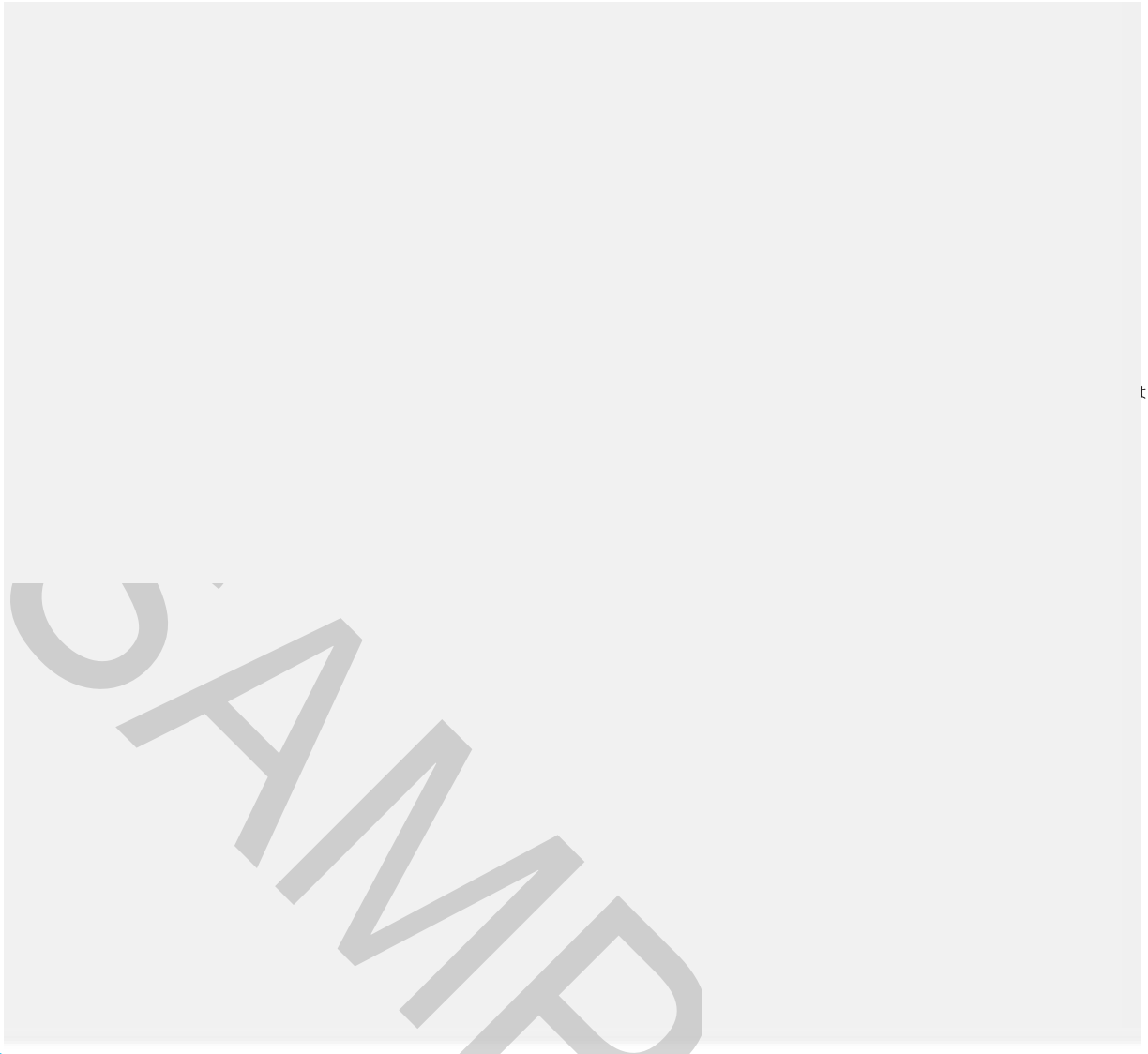
□② 線②「まるで『人がかわった』ようになる」と

ありますが、どのようにかわるのですか。ふだんの様子と、かわったときの様子を書きましょう。

新出漢字

32ページ←

- 論 ロン
- 点 テン
- 暮 ク
- らす
- 存 ソン
- 在 ザイ
- 従 シタガ
- う



ふだんは、

遊びに熱中すると、

★ヒント★「ふだん」と「遊びに熱中した」ときの、ネコの様子のちがいをまとめよう。

□ ③

ネコが食器だななどの高いところにすわりこむのは、ネコにとって何をしているつもりですか。本文中から書きぬきましょう。

（ つもり。 ）

□ ④

線③「ネコの社会」とありますが、それは、イヌの社会と比べて、どのようなものですか。本文中からそれぞれの字数で書きぬきましょう。

イヌの社会では、群れに  
 があり、他のイヌが従っている。

ネコの社会では、群れを作らず、  
 をもち、順位が本来的に存在しない。

★ヒント★最後の二つの段落をよく読もう。「イヌの社会」と「ネコの社会」では、どんなことがちがうのかな？

このことば、使ってみよう

- ほんとうに。 → まちがいが無い
- いったい。 → 様子。
- たしかに → たよりに
- 依存 → 一度。
- いったん

## 「じつば」の変化

学習日  
月 / 日

「じつば」について学習しよう

◎形の変わることはと形の変わらないことは

例文① 花が さく。

右の例文を、「きのう」ということばを付け足して書き直すと、

例文② きノウ 花が さいた。(「さく」に「た」が付く)

となります。また、例文①の意味を「打ち消す」言い方に直すと、

例文③ 花が さかない。(「さく」に「ない」が付く)

となります。同様にして、例文②を「打ち消す」言い方に直すと、

例文④ きノウ 花が さか なかった。

(「さく」に「ない」が付く、さらに、「ない」に「た」が付く)

となります。ここからわかるように、文の意味を変えたり、あとに他のことばが付くと形が変わることがあります。ここでは、「さく」や「ない」がその例です。一方、「花が」や「きのう」は形が変わりません。

ことばの形が、意味やあとに付くことばに応じて変わることを、「活用する」といいます。主語と述語で学んだ基本の文の形である、「何が——どうする」「何が——どんなだ」の「どうする」「どんなだ」にあたることばは、「活用する」ことばです。また、例文の「ない」のようなことばも、下に付くことばによって、「活用する」ことばです。

■ 問題で確認してみましょう。

- ① 次のそれぞれの文の□には、「深い」ということばが入ります。あとのことばにうまくつながるように、「深い」を、必要に応じて形を変えて書きましよう。

★ヒント★あとのことばによって形が変わるね。

- (1) これは、この県で最も□湖だ。

- (2) その湖はそんなに□ない湖です。

- (3) どんなに□うとも、泳げないことはない。

- (4) そのことばには□意味があった。

- (5) これ以上□ば、子どもが泳ぐのは危険です。

- (6) その湖は、想像以上に□た。

② 次のそれぞれの文の——線部のことばを、文の意味に沿うようにふさわしい形に直して書きましよう。

□ (1) 自分がその日、どんな生活を(する)たか、それをいつわりな(書く)ていくつもりだ。

□ (2) おじいさんが(かぶせる)てくれたあみがさを、おじぞうさんはたいそう(喜ぶ)で、夜ふけにお礼の品々をもってやってきました。

□ (3) 「もっと腹に力を入れて(ふんばる)」と、先生に命令された。

□ (4) あの、いつも(おだやかだ)顔をしている先生が、今回のぼくのいたずらに対しては、それこそ額に(立てる)て、火のごとくおこったので、みんなおどろいてしまった。

□ (5) 祖父は九十才を過ぎた今も(健康だ)、毎朝二キロの散歩は欠かさない。

③ 次のそれぞれの文の( )内のことばを、文の意味に沿うようにふさわしい形に直して書きましよう。

□ (1) そんなことは、まったく知ら(ない)た。

□ (2) 兄ならきつとうまくやる(だ)う。

□ (3) そんな絵なら美術館に行けば、いくらでも見(られる)ます。

□ (4) 母にそうじの手伝いをさ(せる)られた。

□ (5) どうも先生にしかられ(そうだ)感じがする。

( ) しかられ ( ) 感じ

二歩先へ

◎ ふだん、何気なくつかっていることばも、実際に辞書で調べてみると、意外な形をしていることがあります。そういうことに興味を持って、形の変わることば、形の変わらないことばを、少しずつ覚えていきましよう。

新出漢字

32ページ←

- 危キ
- 筋スジ

★ヒント★文全体の表す意味から考えよう。

3

## 随筆(1)

言葉を学ぶ

柴田武

学習日  
月 / 日

## 学習のめあて

○「わたし」の思いをていねいに読み取りましょう。

読んで考えよう

●眼鏡は度が合ったものだとものが見えますが、言葉を覚えることについても眼鏡と同じようなことがいえそうです。

✓ さいしよにチェック! 次の問いに答えよう!

□① 筆者は、眼鏡をかけたことと何が同じだとらうてらますか。 ( ) を学びたい

□② 筆者は、何の動物を見分けることができるようになったらましたか。 ( ) と ( )

□① 線①「初めて新しい眼鏡にかけかえた時」とありますが、

□① 見えるものがどのように変化しましたか。本文中から書きぬきましょう。

∩ ( ) としか見えなかった樹木が、

∩ ( ) まで見えるようになった。

★ヒント★すぐあとに、どのように見えるようになったのか書かれているね。

□② このときの筆者は、どんな気持ちですか。

ア 安心している。

イ よろこんでいる。

ウ おどろいている。

□② 高崎山のサルの飼育者と、アラビアやアフリカの草原で羊を追っている人に共通しているのは、どんなこ

新出漢字

32ページ←

● 樹 ジュ  
木

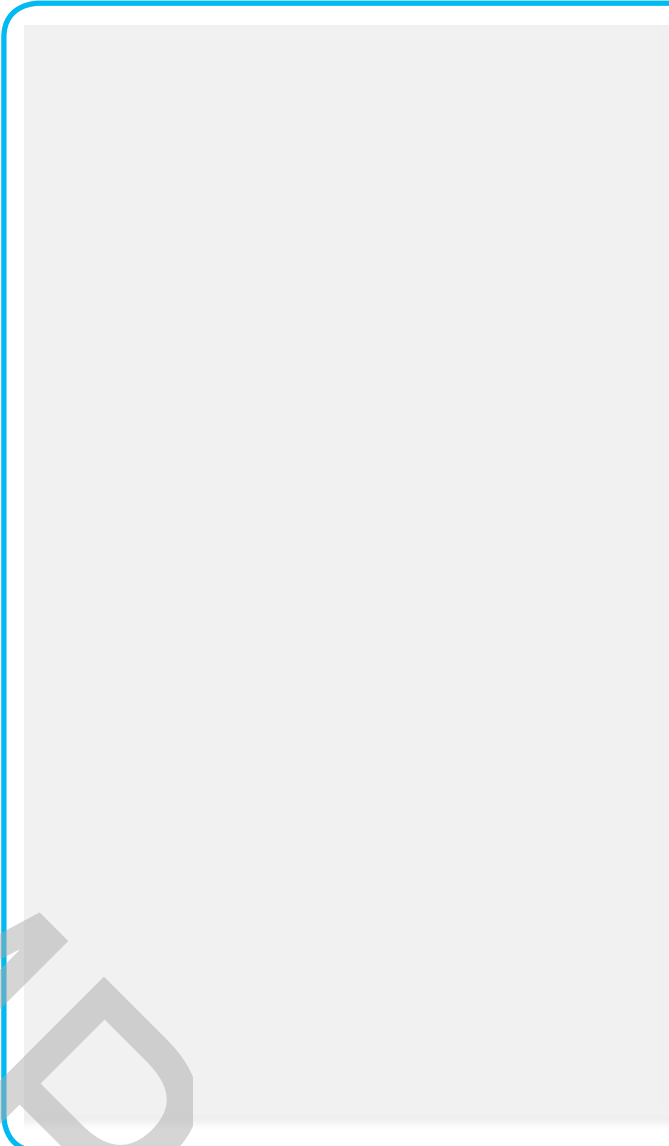
● 一枚 マイ

● 乱 みだ  
れる

● 姿 すがた

この「ついでに」を使ってみよう

- 前の内容を言いかえることば。  
すなわち
- さきほど別の事がらをきついでに別の事かたをきくにつけ加えることば。また
- 前の内容に続いて起る事がらを述べる。そして
- 前の内容と反対のことばを続けて言うことばに使用することば。しかし



とですか。本文中から書きぬきましょう。

へどちらも、動物全部に

[ ]

をつけること

によって、一つ一つ

[ ]

ことが

できるようにしていること。

★ヒント★第三だん落の内容をよく読み、動物にどうすること  
で何ができるようになってくるのか、まとめよう。

□ 3

線②「今まで一つでしかなかったものが二つに見えだした」とありますが、筆者が「トカゲ」と「カナヘビ」を見分けられるようになったのは、なぜですか。

[ ]

★ヒント★今までは、「カナヘビ」も「トカゲ」だと思っていたんだね。

が見えるようになったから。

□ 4

線③「それ」は、どんな内容を指していますか。  
ア 世界が開けることで見えるもの。  
イ 現実世界に存在する、いろいろなもの。  
ウ 現実世界にあっても気づかないもの。

★ヒント★すぐ前に書かれている内容に注目しよう。



## 熟字訓

学習日  
月 / 日

ひょうじくじんごをばい

### ◎熟字訓とは

熟語としての読みが決まっています、一字一字を分けて読むことができないものを、熟字訓といいます。熟語全体を訓読みしたようなものと考えておけばよいでしょう。

例えば、河原（かわら）、今日（きょう）、友達（ともだち）など、身近な熟語の中にも、熟字訓は少なくありません。

これまで学習してきた熟語の読み方には、

- (1) 音読みに音読みが重なったもの
  - (2) 訓読みに訓読みが重なったもの
  - (3) 音読みに訓読みが重なったもの
  - (4) 訓読みに音読みが重なったもの
- がありました。熟字訓は五番目の熟語の読み方ということになります。

### ◎熟語の意味のつかみ方

右の(1)～(4)の熟語の場合は、漢字一字一字の意味や熟語の組み立てを考えることで意味をつかめることが多いのですが、熟字訓の場合、熟語全体で一つの意味になるため、文脈に当てはめて意味を考えていく必要があります。

■ 問題で確認してみましょう。

- ① 次のそれぞれの文の——線部の熟語(熟字訓)の読みを、ひらがなで書きましょう。

- (1) 明日の昼までにはレポートを提出しなければならぬ。

★ヒント★「みょうじち」という読み方もあるよ。

- (2) 大人になったら飛行機の操縦士になりたい。

- (3) 昨日から頭がいたくて、まいてっているんだ。

★ヒント★「ざくじこ」とはちがう読み方だよ。

- (4) デザートとして果物がたくさん出てきた。

- (5) 美しい景色をながめながら、みんなで弁当を食べる。

- (6) 今年はさんざんな年だったので、来年に期待したい。

- (7) 山の中を散策して、清水のわき出す場所を見つけた。

★ヒント★「きよみず」「せいすい」は熟字訓ではないよ。

□ (8) 父はカラオケがとても上手だ。

★ヒント★「つめて」「かみて」ではないよ。

□ (9) 今年もまた七夕がやってくる。

□ (10) 四月一日は、エイプリルフールである。

★ヒント★「いちにち」と読まないように！

□ (11) 家の手伝いをする感心な少年。

□ (12) 誕生日のお祝いに時計を買ってもらおう。

□ (13) 弟は、お天気博士とよばれている。

★ヒント★「はくし」とはちがう読み方だよ。

□ (14) 父の将棋は下手の横好きだ。

★ヒント★⑧と反対の意味の読み方だね。

□ (15) 自分の部屋がないので、図書館で勉強した。

② 次のそれぞれの文の——線部の熟語(熟字訓)の読みを、ひらがな

で書きましよう。(小学校では習わない熟字訓もあります)

□ (1) お母さんが料理を作る。

お さん

□ (2) はずかしくて、顔が真っ赤になる。

真 っ

□ (3) 朝起きて、眼鏡をかける。

い

□ (4) 八百屋で野菜を買う。

い

□ (5) 兄は意気地がないと、いつも父に言われている。

い

二歩先へ

◎ 小学校で習う熟字訓だけでなく、小学校で習う漢字を組み合わせてできている熟字訓も、積極的に覚えていきましよう。たとえば、剣道で使う竹刀などは、漢字としてはむずかしいけれど、「しない」と読むのは知っていないとむずかしいものです。

新出漢字

32ページ←

- 熟字訓 (ジュクジュク)
- 操縦 (ソウジュウ)
- 散策 (サンサク)
- 誕生日 (タンスン)
- 将棋 (ショウギ)